

足羽川ダム計画の目標と規模について

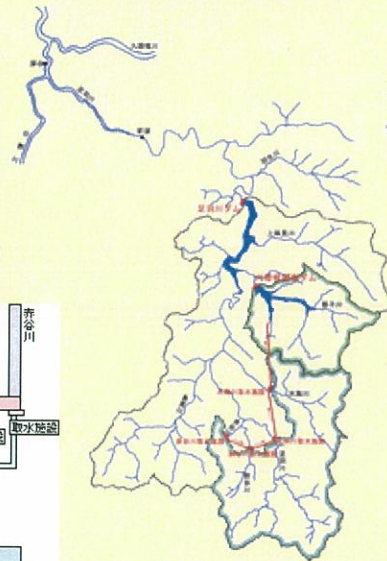
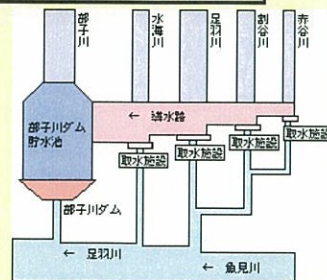
平成18年 1月31日

足羽川ダム工事事務所

1

◇ダム計画に関するこれまでの説明経緯①

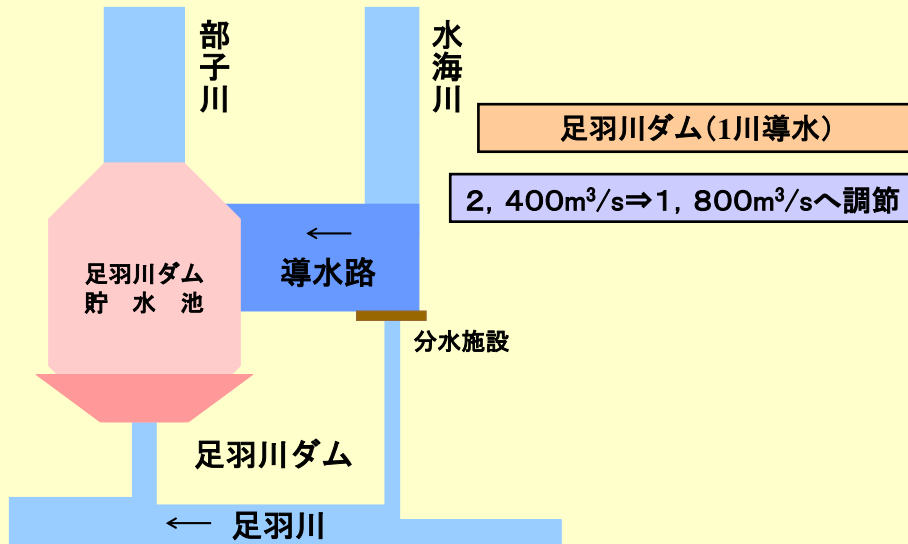
集水面積	約105km ²
総貯水容量	約72,000,000m ³
ダム高	約130m
導水トンネル本数	4本
導水トンネル 延べ延長	約11km
導水トンネル トンネル径	約5m~17m
取水施設	4カ所



足羽川ダム計画事務局
※第3回九頭竜川流域委員会資料

2

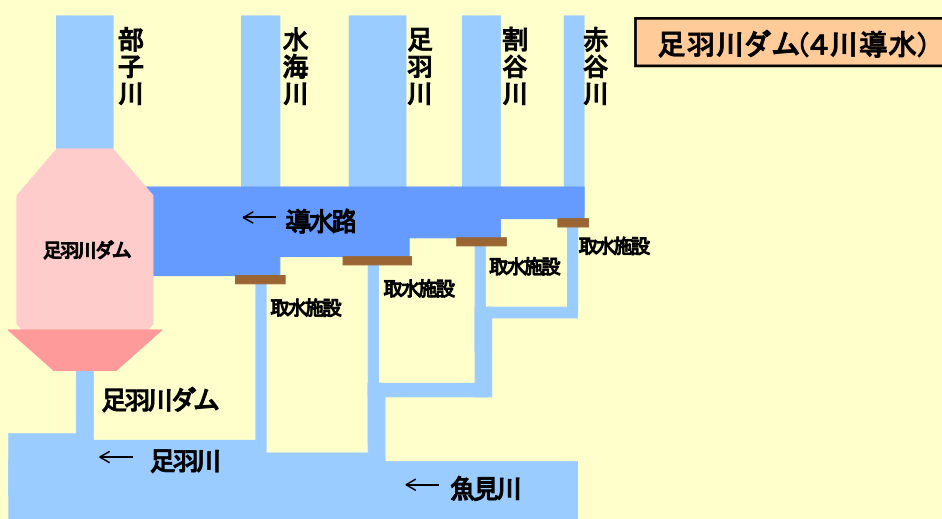
◇ダム計画に関するこれまでの説明経緯②



※第24回九頭竜川流域委員会説明

3

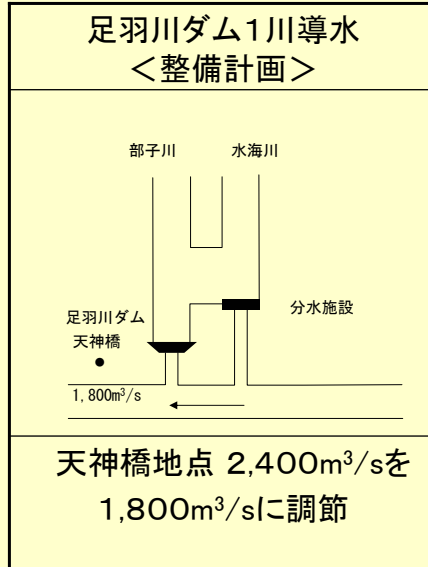
◇ダム計画に関するこれまでの説明経緯③



※第24回九頭竜川流域委員会説明

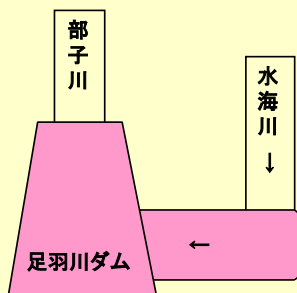
4

◇整備計画の目標流量



5

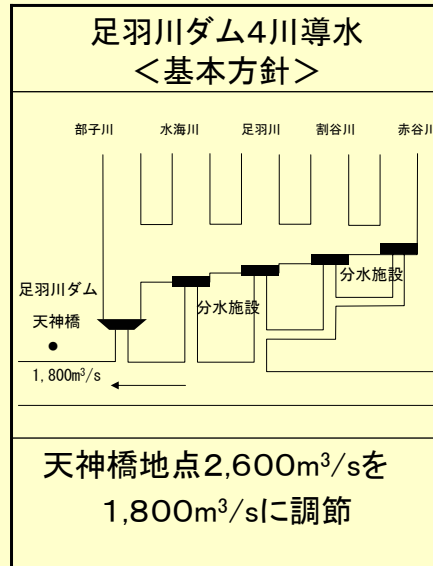
◇整備計画期間中に整備するダム



工事内容	河川整備計画期間
ダム本体	←→
部子川～水海川	
水海川～足羽川	
足羽川～割谷川	
割谷川～赤谷川	

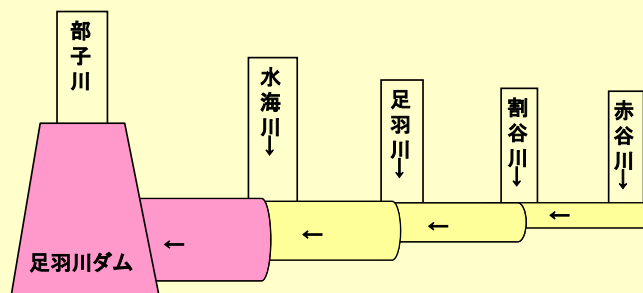
6

◇基本方針の目標流量



7

◇基本方針に対応するダム



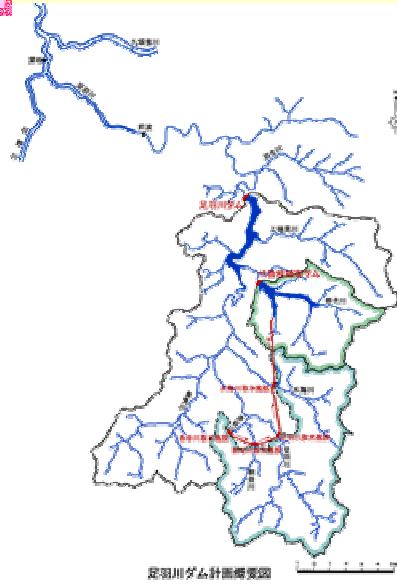
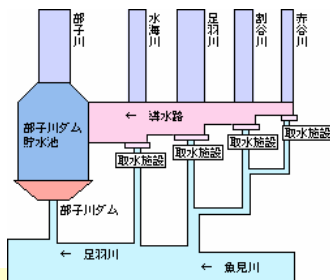
工事内容	河川整備計画期間	次期河川整備計画期間以降
ダム本体	←→	
部子川～水海川		
水海川～足羽川	←→	
足羽川～割谷川		
割谷川～赤谷川		

8

◇足羽川ダム事業計画

第20回九頭竜川流域委員会資料

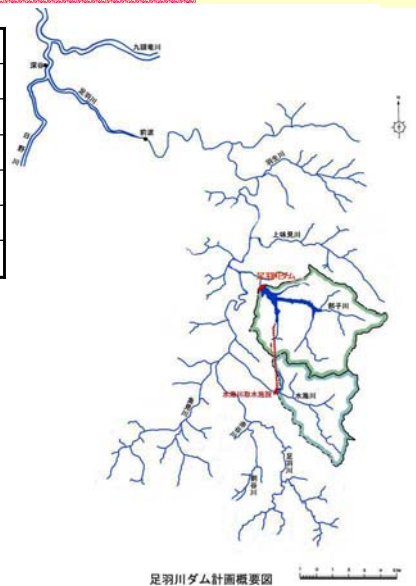
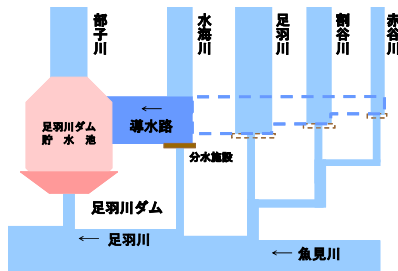
集水面積	約105km ²
総貯水容量	約28,700,000m ³
ダム高	約96m
導水トンネル本数	4本
導水トンネル 延べ延長	約11km
導水トンネル トンネル径	約5m～15m
取水施設	4カ所



9

◇整備計画期間中に整備するダム

集水面積	約55km ²
総貯水容量	約28,700,000m ³
ダム高	約96m
導水トンネル本数	1本
導水トンネル 延べ延長	約4.5km
導水トンネル トンネル径	約15m
取水施設	1カ所



10

◇整備計画期間中に整備するダム

整備計画期間中に整備するダム本体と水海川からの導水施設は、基本方針を見据えた規模とします。



(理由)

- 手戻り工事(重複投資)による建設費の増大を抑える。
- 地域コミュニティの分断等の社会的な影響を抑える。
- 自然環境への影響を1度抑え、早期回復に努める。

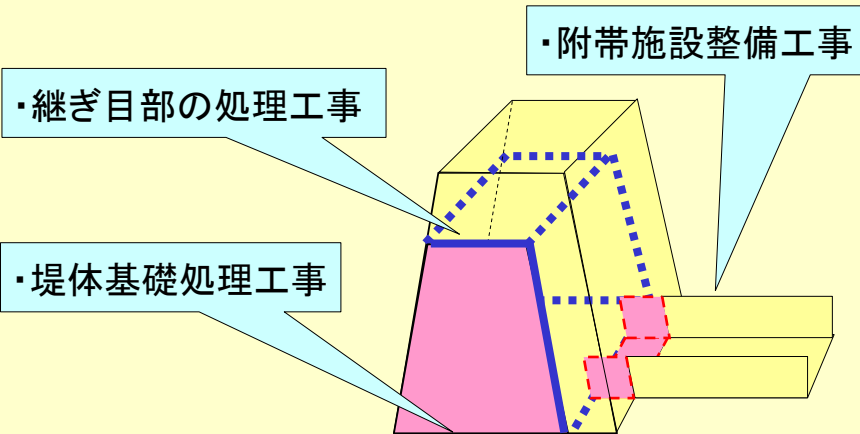
11

ダムの建設費と影響

12

◇事業費(ダム本体)

■手戻り工事による建設費の増大を抑えることができます。



13

◇事業費(仮設備)

■手戻り工事による建設費の増大を抑えることができます。

コンクリート製造設備



濁水処理設備

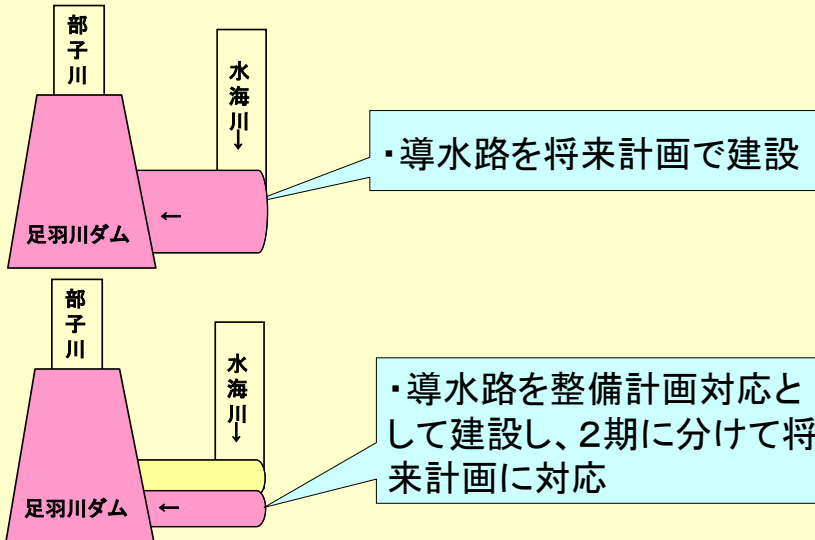


東北地整 森吉山ダム HPより

14

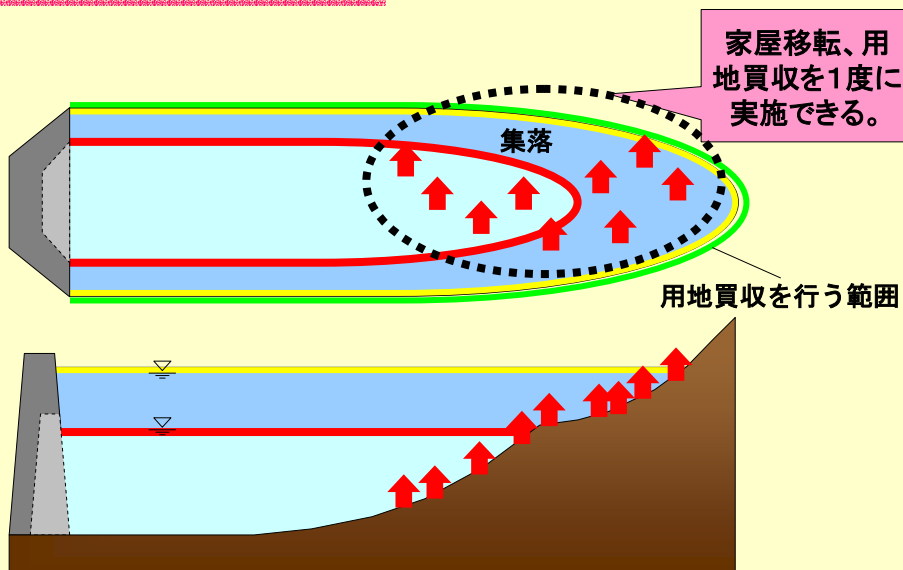
◇事業費(導水路)

■手戻り工事による建設費の増大を抑えることができます。



15

◇社会的影響



16

◇環境的影響

ダム建設中 (H11年8月)



植生復元後 (H15年9月)



緑と生態研究会 機関誌 2004年/vol. 11より引用

◇環境的影響: 植生復元事例



箕面川ダムの植生復元の例

箕面川ダムにおける環境保全基本コンセプト

- ①箕面本来の自然を再びよみがえらせること。
 - ②施行にあたっては不自然な自然破壊を行わないよう人為的介入を最小限にすること。
- 自然が潜在的に持っている回復力に頼り、気長にそれを助けてゆくこと。

箕面川ダムの場合、自然の回復までに、15年程度を必要とした。

自然回復 例1



1983年4月
保存された森林表土を戻す



5年後
1988年10月
先駆低木林が回復しつつある



15年後
1998年10月
樹木は大きく成長し、部分的に枯死
がおこって更新が始まりつつある

自然回復 例2



1981年5月
林道工事で表土が失われ、裸地に
ちかい貯水池斜面



9年後
1990年10月
表土をまきだした同じ場所の状況
アカメガシワが優占する



16年後
1997年11月
樹木は大きく成長している

大阪府ホームページより引用

◇まとめ

整備計画期間中に整備するダムは、基本方針に対応するダム計画を見据えて建設すると、段階的に施工するよりも次の効果が得られます。

- 手戻り工事による建設費の増大を抑える。
- 社会環境、自然環境に対する影響を抑える。



河川整備計画期間中に整備するダムは、ダム本体と水海川からの導水施設を、基本方針に対応できる規模で建設する。

その他の導水路は、今回の河川整備計画期間以降に実施します。